

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2373500145 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人知多学園 | | |
| 事業所名 | 前山ホームらく楽(東ユニット) | | |
| 所在地 | 愛知県常滑市金山字前田129 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年10月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階 | | |
| 聞き取り調査日 | 令和4年11月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが自分らしく暮らしていくことができるように、施設での生活の中で今できることを見極め、力を引き出すお手伝いとしての支援ができるよう働きかけています。
長引くコロナ禍の影響から様々な制限を受けながらも、どのようにして利用者様の自己実現へ向けての折り合いをつけていくかを職員全員で考え、実行していけるよう努めています。
地域行事が中止になることも多い中、日常のささやかな取り組みでも少しずつ施設の外へ顔を出し、こちらから地域に存在をアピールしていく機会も作ることで、これまで積み重ねてきた信頼関係を未来へ継続していけるよう事業所運営に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を掲示し職員間での共有を図っている。利用者個々の得意な家事作業をして頂くなど、個別性に合わせた対応を心がけている。反面、コロナの影響で地域との関りが困難な状況は続いている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事が中止になるなど、昨年に続きコロナの影響を受ける中ではあるが、清掃活動への参加や作品展への出展など、これまでの関係を途切れさせない努力は続けている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議後の行事は今年も実施には至っていない。代替の活動のできておらず、地域への発信方法は課題として続いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 感染状況を勘案しながら開催しているが、感染拡大期には書面での活動報告となっている。顔を合わせる機会が減った分意見としては集まりにくくなっているように感じている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議への参加を依頼したり、書面を送付することで活動を報告し、意見やアドバイスを受け事業所運営に活かすようにしている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関は離脱防止の観点から常時施錠されている。定期的な委員会、研修の実施を通して職員間で理解が正確に浸透できるよう努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内で起こった事案を会議内で検討し、虐待につながらないよう対策を話し合っている。職員同志注意を払っているが、全ての職員が関連法について学ぶ機会が行き届いているとは言えない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者や家族からの制度利用の要望には対応しているが、職員個々が権利擁護について学ぶ機会は少なく、理解は充分ではない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所申し込み時点から、不安なことや疑問を確認し、十分な話し合いの上で契約を行えている。改定などの際は、事前に会議や書面で案内、説明をし、理解や納得を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 受診や電話連絡等の際には、意図して暮らしの様子を丁寧に説明したり要望の聴き取りを行い、支援につなげられるよう努めている。希望する方にはラインで月に1度動画を撮影し送信している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議帯での意見交換や、定期的な面談での要望の聴き取りを行っているが、意見を運営に反映しきれていない場面もある。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人として人事考課制度があり、年に2度管理者より評価とフィードバックを行い給与に反映されるようにしている。また資格取得や経験年数にあわせた昇給の仕組みも整えられている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人として資格取得支援制度があり、対象の職員に対して活用している。外部研修に参加させる機会が減少している分、オンライン研修の導入、定着に向けて進めているところである。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 愛知県グループホーム連絡協議会に加盟し、管理者が参加し情報交換に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス導入当初は特に、安心して生活を送れるよう要望の聴き取りや関係性作りに努めている。記録や申し送り、会議を通じて職員間で情報共有し、早期に個別のニーズに対応しているよう図っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所直後は特に入念に連絡を取る、生活の様子を詳しく伝えるなどし、安心して頂けるように配慮するとともに、ご意見や要望をしっかりと伺い信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 安心、安全な生活を送れるよう、それまでの生活歴や困り事、要望をしっかりと聴き取るとともに、社会資源の活用等も含めた広い視点での支援方法を丁寧に説明するようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事作業やレクリエーションなど、個々のできることや得意なことを把握して、コミュニケーションを取りながら共に行うことで自立心の向上や関係性の構築につながるよう支援に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 受診や衣替え等、家族と利用者とは疎遠にならないようできる範囲内の協力を依頼している。また課題を相談する、生活歴から支援方法を考えるなど、一緒になってケアに参加して頂けるよう図っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外部と触れ合う機会は少ないが、馴染みの方や場所などを日々の会話の中で話題として出すなど工夫をしている。家族には月に一度手紙や動画を送付し、お互いに関係が途切れてしまわないよう努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の能力や関係性を把握し、家事作業やレクリエーションなど職員が間に入り、関りあえるよう調整を図ることで、一人ひとりが孤立することのないよう配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 移設する方が発生した際には、移設先の求めに応じて情報提供し、微力でも支援継続の手助けになるよう努めている。退所後でも家族からの電話相談等には応じるようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者との関りや家族とのやり取りの中で、得られた情報をもとに、月に1度カンファレンスの中で話し合い個別にケアに反映することができるよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時のアセスメントをもとにフェイスシートを作成し、職員間で情報共有できるようにしている。入所後も本人、家族からのお話しなどを踏まえて更新し、馴染みや意向に沿った生活に近づけるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 特変時はもちろん、日々の暮らしの中での利用者の様子ややり取りでのささやかな変化も、個人記録や申し送りを活用して、職員間での情報共有や継続しての経過観察に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネージャーが中心となって月に1度カンファレンスを開催し、現状に対しての改善点などをとりまとめてケアプランに反映させるようにしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や状態については個人記録に記載し、特記事項等は1日2回の申し送りで口頭でも伝達し、確実に情報が伝わるよう図っている。記録や申し送りでの課題、問題点をカンファレンスや職員会議で議題にあげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ケアプランに即した対応を原則とし、変化に対しては職員間での意見交換や家族の意見も伺いながら臨機応変に対応する方針ではあるが、多機能化にまでは至れていないように思える。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源と利用者とうまく結びつけられていないところはあるが、季節には近所の桜並木や彼岸花を毎年見学に行くといった支援はしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前からのかかりつけ医への受診を基本とし、家族に対応を依頼して継続して診てもらうこととしている。重度化や家族が遠方在住、仕事等の都合で対応困難な場合は、施設で代行し家族に結果を報告している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 身体的な変化に対しては、都度看護師に報告し指示を受けて対応している。また記録に残し状況の伝達をしている。看護師は常駐ではないが、24時間連絡が取れる体制は整えられている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院発生時には看護師とケアマネージャーが主となり、医療機関との連絡、調整をしている。なるべく密に連絡を取り、情報収集、共有し退院時にはすぐに対応できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所段階から看取り期の支援方法について説明し意向を伺っている。実際に看取り期に入ってきたからは状態の変化に伴ってこまめに家族に意思確認を行い、看護師とかかりつけ医が連携をとって支援に取り組めるよう努めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 話し合いは行うが、訓練実施までは至っていない。実践力を身につけたいと感じている職員もおり、学習の機会の確保や方法をどのようにしていくかが課題となっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年間2回日中、夜間想定での火災避難訓練を実施している。災害の種別に応じた訓練や地域連携について、より実践的な視点で検討し災害に備えていかなくてはならない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室等のプライベートな空間に立ち入る際には、本人にひと声かけるようにしている。個人のプライバシーに関わることは居室でお話するよう配慮している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常会話の中からも声掛けの仕方を工夫するなどし、なるべく自己決定を促し思いに添えるよう努めている。会話が困難な方にも、表情や反応から思いを読み取れるよう心がけ対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や入浴、レクリエーション、静養など日課として決まっていることはあるが、気分や体調によっては個別に変更や調整するなど、本人のペースで過ごせるよう配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | できる方には自分で選んだ服を着て頂くようようにしているが、季節にあっていない場合や汚れている場合には声をかけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日常的に食事の準備には参加していないが、食器を洗ったり拭いたりのお手伝いはして頂いている。行事の際には個々のできる範囲内で調理にも参加して頂いている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分の摂取量は記録に残し確認できるようにしている。形態や量は必要や好みに応じて個別に対応しているが、細かな栄養バランスまでは対応しきれていない。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行い、夜間は毎日義歯を洗浄している。できる方は自分で歯磨きをして頂いており、必要に応じて介助を行っているが、口腔衛生への専門的な知識は薄い。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握し物品を選定できるよう図っている。パターンに合わせて職員がトイレの声掛けをするなどして機能維持や清潔に過ごせるよう努めている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘薬を使用もしているが、なるべく自然に排便できるよう、毎日朝食時と15時に牛乳を提供している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は週2回、全員が確実に入れるよう曜日と時間は予定としては決まっているが、気分や体調に応じて変更している。個人の好みに合わせて湯温を調整したり、気持ちよく入って頂けるよう努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 寝具や寝間着は定期的に洗濯する、季節や本人の訴えにあわせて、寝具や室温を調整するなど快適に眠れるよう支援している。日中の昼寝や休養等は、夜間不眠にならない程度に自由にして頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 管理は看護師が行い、指示に応じて介護士が服薬の支援を行っている。種類や効能などは、全職員が把握できているとは言えない。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 季節感や利用者個々の得意なこと、好みに合わせて家事作業やレクリエーションに参加して頂くよう支援している。外出が困難な分、施設内で行う取り組みに力を入れている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナの影響が続いているため、外出は原則行っていないが、散歩や外気浴、ドライブ等で季節感を感じて頂けるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 方針として、原則現金の自己管理はしないことで全利用者に了承を頂いている。立替払いとして金銭を自由に使って頂くことは可能だが、外出を行っていない為機会がない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族と手紙のやり取り電話で話して頂くことは施設としては可能だが、現状希望者がいない。家族より要望があった際は電話を代わったりLINE電話でお話してもらおうなど対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 壁紙や作品など、レクリエーションの中で季節を感じられるものを利用者と一緒に作成し、共同生活室に飾ったりしている。 採光や換気などは季節に合わせて時間で行い、快適な住環境作りに努めている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 両ユニットの行き来など施設内の移動は自由としているが、人間関係でのトラブルや危険行為、箇所の回避の為に利用者の行動を見て職員が介入している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日常的に使用する馴染みのもの、お好みのものなどは、持ち込みは自由にして頂いて良いこととしている。利用者担当を決めて居室の環境整備を行い、心地よく過ごせるよう努めている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内は全面バリアフリーとなっており、リビングや廊下に手すりが設置されている。居室やトイレなどは張り紙などで案内し、認知症の方でも資格からの情報で分かりやすいよう配慮している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2373500145 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人知多学園 | | |
| 事業所名 | 前山ホームらく楽(西ユニット) | | |
| 所在地 | 愛知県常滑市金山字前田129 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年10月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階 | | |
| 聞き取り調査日 | 令和4年11月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが自宅で過ごしていた頃と変わらず自分らしく暮らしていくことができるように、施設での生活の中で今できることを見極め、力を引き出すお手伝いとしての支援ができるよう働きかけています。
利用者様の高齢化、重度化が進行しつつある中でも、グループホームとしての家庭的な温かい雰囲気としっかりとした介護力を両立させ、安心して生活を送って頂けるよう努めています。
コロナの影響は続く中ですが、地域から忘れられることのないように、できる範囲内で施設の外へ出て顔をあわせていけるよう日常活動の中で意識しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に掲げ共有を図り、実践につなげている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの影響で数年地域との交流はかなり減ってきているが、町内会などには入り情報は交換できるようにしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2か月に一度運営推進会議を行うようになっているが、コロナによって定期的に開催は出来ていない。開催出来た月は生活の様子や行っている事業計画をお知らせしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活動報告で頂いた意見等、職員間で情報共有し運営に反映させている。開催できない月、書面を通じて報告している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に出来るだけ出席して頂きそこで事業所の活動や実情を報告し意見交換している。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に委員会を開催しそこで話し合った意見を職員間で共有し知識を深めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティングなどで勉強会を開き職員間で虐待に繋がるような事がないよう注意をはらい防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現時点では利用している利用者様もないため定期的に学ぶ機会はないが、今後の為にも学ぶ機会を設けていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分な時間を設け家族様に納得頂けるまで話し合いをしている。改定後は書面で事前にお知らせし会議などで疑問点を聞き理解を深めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会中止な為、月一の家族通信で施設内の様子をお知らせすると共にリモート面会、ラインでのピオレターを送るなどし、ご家族様の要望、意見を聞き出し反映させている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に面談を行い職員の要望の聞き取り意見交換している。月一ミーティングを行い事業計画や運営方針の意見交換し反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に一度能力によって昇給はある。資格をとる際のお金の補助や研修などは他職員にも理解してもらい行きやすい環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | オンラインでの実施を含め社内、社外研修があればアナウンスし個人のスキルに応じた研修に参加できる体制を整えている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナの影響で交流する機会はないが、リモート会議など行い意見交換、情報交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に十分な時間を設け面談を行い、要望にそえるよう情報共有している。生活に慣れるまでは行動、表情に注意を払い不安に思っている事が聞き出せるような関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | コロナで面会もできない為入所前に要望、不安な事が少しでも解決できるよう十分な話し合いができる時間を設けている。その後は電話や書面で様子を伝えるなどし関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメント時や契約時に聞き取りを十分に行い、今何が必要かを見極め支援できるようつめている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人と会話の時間を設けその方の生活歴、家族関係や趣味、嗜好を聞き出し家族の延長と想っていただけのような関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 受診は家族様に同行して頂きそれまでの様子や変化を伝え家族様から医師に伝えて頂くようにしている。季節の衣替えや食が進まない時などは家族様に意見を頂くなど共に協力体制をきずいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナの影響で馴染みの方との面会、外出は今のところ出来ない。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様の人間性を理解し気の合う者同士を同じテーブルにしている。状況によって場所、配置を変えより楽しんで頂けるよう配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 現状関係が続いている家族様はいないが必要に応じて対応できるような体制は出来ている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の会話から思いや希望を聞き出し出来るだけ希望に添えるようにしている。聞き取りが難しい方は家族に聞き取りを行っている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の面談にて家族や担当ケアマネ様から聞き取りをおこないそれを情報共有し本人に馴染みのある暮らしが送れるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 少しの変化でも見落としがないよう個人記録に残し職員間で共有している。引継ぎや申し送りでは共通理解を深め周知を徹底している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月一のケアカンファレンスで上がった議題、改善点などはすぐに共有し介護に反映させケアプランにも反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は、個人記録に残しそこできずいた改善点をミーティングなどにも反映させ実践につなげている。方針が決まり次第記録に残し情報共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の希望や家族の要望などに日々耳を傾け一人ひとりが自由に生活できるよう柔軟な対応に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設で畑を作りそこを地域の方との交流の場としていたがコロナによって交流の場が減少し地域資源の利用もほとんど行っていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医と連携を取り往診や緊急時の対応が迅速にできる体制は整っている。受診などは家族様に付き添いを依頼し現状把握して頂けるようにしている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調の変化などはすぐにナースに報告し指示を仰いでいる。また申し送りなどで情報を共有し適切な対応ができる体制作りになっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | コロナ禍で入院中の面会は出来ないが情報はナースから報告を受け共有している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期の在り方は早い段階から家族様に尋ね支援方法をより希望に添えるよう心がけている。かかりつけ医、ナースとも連携をとりチームで支援に取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 初期対応は看護師の元行っているが、訓練等は行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を定期的に行っている。コロナ禍で地域との交流は行えていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 1人ひとりの人格を尊重し言葉使いや対応に心掛けています。職員間でもお互いを注意し合い改善に努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話の中から思い、希望を聞き出し可能な限り行えるよう話し合いをしている。誕生日などは本人から聞き取りをし希望に添えるよう心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりの生活パターンを尊重し食事の時間をずらしたり、個々によって睡眠の時間を決めてもらうなど配慮している。お部屋は自由に行き来できるようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の整容、洋服選びはご自身で出来る方をお願いし、出来ない方は季節に沿った快適な暮らしが送れるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入所時にアレルギーや好みを聞き代替えするようには配慮している。また、おやつを共に作ったり季節の食材を取り入れたレクリエーションを行っている。食後の食器は洗える方をお願いしている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量を毎日記録し食事、水分量が減少傾向の方には話し合いの場を設け家族様にも協力してもらい一定の食事量が保てるよう努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 本人に合わせた口腔ケアを毎食後行えるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 基本時間で誘導時間を決めているが、個々の排泄パターンも見極め出来るだけトイレで排泄ができるよう支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 下剤だけに頼らず、水分を多めに提供したり食物繊維入りのスティックを使うなど自然に排便ができるよう工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回入浴パターンを決めているがその時の状況、体調、入浴拒否などは無理強いせず個々に合った支援を提供している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々に休息パターンを決めているが昼夜逆転しないよう配慮している。本人で決められない方や体力が落ちてきている方などには午前、午後には休息する時間を設けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 投薬パターンや飲み忘れ、誤薬の解決策は話し合いをし改善に繋げているが効果、効能についての理解は不十分である。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々に得意な事好きな事を日々の会話からヒントを得て楽しんで頂ける時間を設けるよう努めている。外出などはコロナで出来ない為近所への散歩などで季節を感じ気分転換の時間としている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナの影響で外出は全く出来ていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理は基本本人ではなく職員、家族で管理しているが持っていないと不安な方などは無理に預かる事はせず本人にお渡ししている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自ら電話や手紙を書きたいといわれる方は少ないが家族様からお電話があった時など本人に変わってもらい家族様とやり取りができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎月壁飾りを共に作成し季節感をとりいれている。ほとんどの方が自分の部屋、トイレを把握できているが混乱してしまう方には目印をつけるよう工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | いつも決まった席で過ごされる時間は長いが臨機応変に配置を変え安全で楽しく過ごして頂けるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物を持ち込む方、工夫される方は少ないが職員と共に衣類の整理をしたり居心地良く過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリーで手すりを設置するなど安全に生活できるよう気配りしている。出来る事は個々で違う為個々に沿った自立支援が出来るよう工夫している。 | | |